

第8回「利根大堰周辺の治水と環境検討会」 議事要旨

【会議概要】

日 時	平成 29 年 8 月 28 日 (月) 13:30～17:00
場 所	利根大堰上流左岸・下流左岸／(独)水資源機構 利根導水総合事業所 説明ホール
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 現地視察             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 概要説明</li> <li>2) 現地視察</li> </ol> </li> <li>3 議 事             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 規約改正案等について</li> <li>2) 車両侵入抑止の現況と対応状況等について</li> <li>3) 掘削等の進捗及び水際再生ゾーンの整備について (案)</li> <li>4) 利根大堰の耐震化工事及び鳥類調査等について</li> <li>5) 今後の予定について</li> </ol> </li> <li>4 閉 会</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事次第</li> <li>・ 席次表</li> <li>・ 検討会設立趣意書／検討会規約／検討会会員名簿</li> <li>・ 資料 1 現地視察ルート</li> <li>・ 資料 2 利根大堰周辺の治水と環境検討会 規約 (改正案)</li> <li>・ 資料 3 車両侵入抑止の現況と対応状況等について</li> <li>・ 資料 4 掘削等の進捗及び水際再生ゾーンの整備について (案)</li> <li>・ 資料 5 利根大堰の耐震化工事及び鳥類調査等について</li> <li>・ 資料 6 今後の予定について (案)</li> <li>・ 参考資料 1 第7回「利根大堰周辺の治水と環境検討会」議事要旨</li> <li>・ 参考資料 2 要望書等 (平成 28 年度)</li> </ul>
出席者	<p>(団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新井 千明：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会 副会長</li> <li>・ 今村 武蔵：NPO 法人ふるさと創生クラブ 代表</li> <li>・ 岩田 薫：全国環境保護連盟 代表</li> <li>・ 島田 勉：NPO 法人行田ナチュラルリストネットワーク 研究部長</li> <li>・ 須永 伊知郎：公益財団法人 日本生態系協会 理事 (※コーディネーター)</li> <li>・ 橋本 恭一：NPO 法人行田ナチュラルリストネットワーク 代表</li> </ul> <p>(行政・関係機関)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千代田町 都市整備課／環境保健課</li> <li>・ 明和町 都市建設課</li> <li>・ 行田市 道路治水課</li> <li>・ (独) 水資源機構 利根導水総合事業所</li> <li>・ 利根川上流河川事務所</li> </ul> <p>(学識者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清水義彦：群馬大学大学院理工学府 教授</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利根川上流河川事務所</li> <li>・ (公財) 日本生態系協会</li> </ul>

## 【現場視察の様子】



①大堰下流左岸・下流域ゾーン～中流域ゾーン掘削エリア



②大堰下流左岸・試験止水池

③大堰上流左岸エリア

## 【会議の様子】



## 【内 容】（敬称略）

### 1 現地視察：資料 1

#### ① 下流域ゾーン掘削エリア

- 掘削地は、前に見たときよりもだいぶ埋まっている感じを受ける。（団体）
- 今の時期でこの位の水の状態だと、冬は 50 cm 以上は水位が下がるからカラカラになるのではないかと。冬に水たまりが多い状態なら、コウノトリも来てくれるかもしれない。（団体）
- 掘り残した微高地の影だけに細かなシルト状の土が堆積している。増水時に下流側から水

が入ってくる中で島をよけるように流れができ、島影だけが流れが緩やかなために細かな土が沈降し堆積したのだろう。(学識者)

## ②試験止水池

- 試験池の底はフラットなのか。(コーディネーター)
- 上流側を深く、下流側を浅めにしており、凹凸をつけて掘ったが、現在どうなっているかは水が濁っているので分からない。(水資源機構)

## ③上流左岸掘削等実施エリア

- このエリアでは、大堰の影響で滞水するためにマコモが多く生育している。大堰の下流側は殆どない。対岸の福川の合流付近の川岸もマコモ群落が発達している。ヨシと違いマコモはガン・ハクチョウ類の餌となる。昨年度、マガンが越冬したのはそのためもあるのではないかと。ただジェットスキー等の影響もあって中々定着できない。近隣の多々良沼もマコモが多く、ハクチョウの飛来がある。(コーディネーター)
- マコモは人間が食べても美味しい。昔はよく食べた。大堰上流はマコモが水際に生育するのが大きな特徴。(団体)
- モーターボートが掘削した法面から掘削エリアなどに入らないか懸念される。何とか規制はできないものか。(学識者)
- 福川にも先日、2台のモーターボートが入っていた。福川の堰も開いていたので堰を越えて上流側へ入っていた。水鳥の生育への影響が大きい。言っても分からない人は逮捕した方がいい。(団体)
- このエリアは、保全エリアのような湿地を作るイメージが示されていたが、なぜ深く掘ってしまったのか。湿地再生という感じではない。(団体)

## 2 会議

### 挨拶（利根川上流河川事務所）

7月から新しく赴任してから流況は比較的良かったが、今日は水位が低い状況だったようだ。皆様に、ご意見を頂きながら進めたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

### 1. 議事

#### 1) 規約改正案等について：資料2

- 規約改正案については意見を反映して頂いており、了解した。関連することとして、参考資料2について申し上げたい。要望書には自分の押印部分があるが、通常、行政での情報開示に際しては押印部分も個人情報なので黒く塗られるのが通常となっている。また、希少種情報は黒く塗られていいと思うが、水資源機構の関連部分も黒く塗られている。大堰工事に伴うカエル等のやりとりをしたことについては、利根大堰周辺環境の検討に大きく関連するので、一体的に開示されないと納得できない。利根上のホームページ上に一緒に公開できないか。それが無理なら水資源機構のホームページで公開できないか。開示がないと読んでいる人も水機構の工事との関連が分からないし、我々もこの共通認識の基で進めている。何らかの形で公開していただきたい。(団体)
- 利根川上流河川事務所としては、水資源機構の分を除いて載せたいと考えている。(事務局)
- 機構の工事の内容と対応については、やりとりをきちんとさせて頂いたという所まで至っていないのではないかとと思っている。機構のスタンスとしては、検討会の一参加者の立場であり、それを利根川上流河川事務所のホームページに掲載するのは違うと考えている。また、機構のホームページでは、管理等に関しては情報を出しているが、環境については最低限の内容であり、主催会議ではない検討会の内容も掲載していない。どうしてもということであれば、持ち

帰って検討したい。(水資源機構)

- 水資源機構も情報公開制度の対象であり、情報公開の主旨からしても当然必要なこと。この検討会でも、情報公開は大事な意味合いを持っている部分だと思う。利根上の分だけの開示では片手落ち。どこまで公開できるか、どこで公開するのか、ぜひ内部で検討して頂きたい。(団体)

## 2) 車両侵入抑止の現況と対応状況等について：資料3

- 折角、進入防止処置をして貰ったにも関わらず車両の侵入があり残念。水路を掘って貰っていた場所から侵入があったようだが、車が通れるように埋まってしまった。また、更に上流のたまり池の方まで車が入ってしまっている。車を止める何かいい方法はないか。(団体)
- 以前も話したが、オフロード車の進入はとても危険。でたらめに走り回っているので、調査に入るのも命がけ。生きものにも影響が見られていた。それがこのところいい状況だったのだが、昭和橋上流の水位が少し低いと容易に入ってこられる場所がある。看板に書いてあるので、彼らは悪いと分かっているし入っており始末が悪い。説得しても無駄で、逮捕する位のことをやってもいいと思う。ゴミ捨ても罰金などの制度があるので、取り締まる時はしっかり取り締まるべき。下流側の浅い所を車が渡れないくらい深く掘るといいと思う。(団体)
- 掘削して頂いた水路は、洪水が来れば埋まる事が想定されるが、それでもなるべく埋まらないようにする工夫ができないか。(団体)
- 埋まるのは仕方がないと考えている。川が動くのは川が活着している証拠。もう少し今回提示した対策で様子を見るとともに、必要であれば浅くなった所を掘るという事を検討したい。皆さんからも、そういった車両の進入を確認したらお知らせ頂けると、より対策にもつなげやすい。適宜、考えながら実施していきたい。(事務局)
- p 9の看板の写真にもあるように、警告ということ以上に国交省としてはできないのではないかな。それ以上どこまで何が出来るかは検討が必要だろう。(学識者)
- p 7の写真の下に「土砂を水面に投げ入れて浅くするという行為も確認されている」とあって、その時に使ったのかスコップも写っているが、このような行為は明らかに違法ではないのか。(団体)
- 違法にはなるが、国がとれる行為としては限界がある。(事務局)
- こういった車両侵入の問題は、なし崩しになると徐々に広がり元の木阿弥なので、資料p10に示されている対策で当面様子を見て、駄目なら物理的な掘削等の対策を新たに講じるということにしてもらいたい。(コーディネーター)

## 3) 掘削等の進捗及び水際再生ゾーンの整備について (案)：資料4

- 下流域ゾーンについては、当初からコウノトリの生息に適した環境づくり、ということで私の所属する「ふるさと創生クラブ」のメンバーにも説明している。行田市も今年度からコウノトリの舞う関東自治体フォーラムに新規参加すること。だが、今日現地を見たところ、冬場は水がなくなってしまうのではないかと思った。もっと全体的に掘り下げないと湿地やコウノトリの餌場になる環境にならないのではないかな。(団体)
- 掘削当時は川俣観測所の水位を参考にしていたが、今年、新たに水位計を掘削エリアに設置している。下流域を新たに掘ることは難しいと思うが、今後の掘削エリアでは、その水位計の状況を見つつ、反映させながら掘っていきたくて考えている。(事務局)
- コウノトリが来るような、という表現があるが、コウノトリが来ることを約束したものではない。多様な環境を創るということで配慮できることはしていきたい。(事務局)
- 一つ整理しておきたいが、コウノトリを目標とした湿地整備を行う場合、現在関東各地で取り組まれているが、コウノトリは基本的に堤内地の水田を採食環境とすることが多いが、田に水がなくなる冬場に河川の浅場への依存度が高まり、概ね冬期に水深 30~40 cmの水位が保たれ



るとというのが、コウノトリの採食適地の標準断面になる。現在、当該場所の水位測定を行っているとのことなので、そのデータを最大限に活かして、p 8の断面図には、あの場所での豊水位・平水位・低水位・濁水位を書き入れられると、掘削の際の最もふさわしい高さの目安になるのではないかと。今日現地を見たが、確かに乾いていてタデ類も大分入り込んでいた。前回の検討会で、掘削の仕方によってオオブタクサ、ヨシ、ガマ等の画一的な群落になるとの話があったが、下流エリアは現状のままでは、抽水植物ではないタデ類が広がる場所になることが懸念される。基本となる掘下げる高さをどう設定するかと、その中でどのようにアンジュレーションをつけて多様化を図るのが重要だと思われる。(コーディネーター)

- 下流域ゾーンの現状が完成形ではなく、掘りつつモニタリングを行ってデータを蓄積し、その知見を上流側の掘削で良い水深高を掘るところに反映させて行くということだろう。p 3のイメージ図は、むしろ大堰上流側なら出来るかもしれないと思うが、下流では滞筋に引っ張られ、このように成形しても埋まってしまうのではないかと。どうせ埋まるのであれば、広めや深めに掘っておき、どう埋まっていくのか、堆積速度がどのくらいか、これまで掘ったところをよく見ながら、上流側の掘削に活かしていくことが必要。(学識者)
- 前回の検討会でも議論があったが、掘削湿地はメンテナンスフリーが望ましいものの、洪水堆積によって現状維持は基本的には難しい。それを見込んで、ふさわしい掘削後の形状をいかに長く持ちこたえられるかが、大きな課題。そうしたことが掘削目標の大きなひとつになるだろう。(コーディネーター)
- p 23の図とp 24の図では、156 kmの位置が異なっている。どちらが正しいのか。また、参考資料2の添付資料④ p 2では、工事実施前に動植物調査を実施するとの回答がされているが、ここでの掘削は調査に基づいてやっているのか。希少種であるアカガエルの生息環境をどう保全するかが問題となって、群馬県では繁殖地が12地点しか確認されていない。その資料も前回提出した。動植物の調査資料は、どこに示されているのか。(団体)
- 156.0 kmの位置はp 24が正しい。また、掘削に先立って調査を行っているが、希少種は確認されていない。今回の資料には付けていないが、調査結果は後日皆さんに提示できるようにしたい。(事務局)
- 今後も動植物調査をしながら、その結果を活かして掘削を進めるということが良いか。(団体)
- 上流左岸の湿地創出エリアは、p 26の写真を見るとよく分かるが、湿地にすると言いつつ画一的な水面が広がっていて、土を削っただけで湿地創出になっていないのではないかと。(団体)
- 掘ってすぐ湿地ができるとは思っていない。数年程度様子を見ていきたいと考えている。(事務局)
- p 24の図に示されている下流側の掘削計画は、今年度の濁水期に工事が行われるのか。(コーディネーター)
- 今の所、今年度は掘削工事は予定していない。する場合はお知らせしたい。(大杉課長)
- すぐに工事を行う事が予定されていないのであれば、調査した結果と掘削形状を併せて検討を行っていくことで良いか。(コーディネーター)

#### 4) 利根大堰の耐震化工事及び鳥類調査等について：資料5

- 資料p 6に「カエル」との表記があるが、何ガエルなのか。(団体)
- アカガエルのことであるが、ここでは明記を控えさせて頂いている。今年2月の工事については、十字ブロックまで土を動かしておらず、卵塊等も確認しており生息環境が保たれていると考えている。今年の工事でも十字ブロックには手をつけないが、引き続き保全を図っていきたい。(水資源機構)
- 鳥の調査はやって貰ってよかった。特に月3回は行わないと把握できないとお願いして、その頻度でやって頂いて良かった。自分自身も同じ場所に調査に入っているのだから結果は把握してい

る。今日も大堰の上流でカンムリカイツブリ 3羽を確認した。昨日、福川で2羽を確認しており、その個体とは別個体と思われる。冬鳥なので、夏を過ごしているというだけですがすごいことだが、もし繁殖すれば埼玉県では初となる。下流側についても月3回は調査して貰えると有難い。(団体)

#### 5) 今後の予定について：資料6

- 今年度、掘削予定は当面ないが、掘削する場合はまたご相談させて頂きたい。30年度には第9回の検討会を開き、モニタリング調査・掘削も引き続き実施していきたいと考えている。(事務局)
- 検討会についての意見だが、渇水期とそうでない時では現地の状況が異なる。夏と冬と年2回は、検討会を開くことを検討して頂きたい。(団体)
- この場は、NPOの方々だけでなく、学識として清水先生、浅枝先生、そして1市2町の行政が集まって協議する場としての位置付けとなっている。今の意見に対し、事務局として検討会のあり方をどう考えているか。(コーディネーター)
- 今年度は工事を今の所予定しておらず、水辺等の形状は変化しないだろうということ、また、今とっているデータも1年間蓄積してから平成30年度に報告をしたいと思っていた。今のご意見を踏まえて考えたいが、基本的には工事が無い時には余り変化がないと考えている。近くに住んでいる方が多いので、夏冬の状況はよくご存知のことと思う。(事務局)
- この辺に住んでいる方、とあったが地域の団体だけに声をかけるのではなく、メンバー全員の公平性を担保してやってほしいので、集まるのであれば検討会として開催してほしい。(団体)
- 7月の頭に7月20日に現地説明会をやるという連絡があった時、他の団体にもこれから声をかけるということだったが、利根上からの連絡は結局なく、私の方に日程調整の問合せがあり、利根上に改善を求める文書を出した経緯がある。一部の団体だけでなく、全団体に連絡して調整してからやるようにしてほしい。以前の検討会では皆さんの都合がつけられるような日に調整して開く、という約束があった。よろしくお願ひしたい。(団体)
- 色々な関係者の方がいる中、なるべく公平性をというお話しがあったので、その辺を考慮して次回の開催についての検討をして頂きたい。(コーディネーター)

#### 4 閉会

- 本日は暑い中現地を見て頂き、現地の現状が共有できたと思う。また多くの意見を頂いた。清水先生がおっしゃった通り、はじめから完成形はないと考える。時間をかける中で環境を選択して頂く中で、今後は掘削した湿地の「長寿命化」を図れるよう知見を重ねながら進めていきたい。本日は長時間有難うございました。今後どうぞよろしくお願い致します。(事務局)

以上